

特別メニューでおもてなし

ラグビーW杯 9月開幕

2019年ラグビーワールドカップ(W杯)が開催される袋井市など県西部5市で、学生と飲食店が協力し、市民の機運醸成を目的にした特別メニューを創作している。計15店舗が8月中旬までに和洋菓子やカレーなどのメニュー提供を始め、9月の大会本番に向けてラグビーファンの拡大を目指す。

西部5市の15店舗

学生と協力し創作

て、大会本番に向けて盛り上がったうれし「い」と期待を寄せた。事業は県が企画し、

湖西市の和菓子店「ひので軒」では、従業員の内藤有紀さん(29)と静岡文化芸術大(23)の河合基博さん(23)が団子と

22日には完成品の試食会が行われ、2人は味や見た目、包装の仕方などを確認した。河

合さんは「学生の意見を生かして新しい味に挑戦できた」と語り、内藤さんは「ユニーク

県西部の女子学生らでつくるラグビーのPRグループ「ラヴィガール」と協力。参加を呼び掛けた袋井、掛川、磐田、

もなかの2品を考案した。団子はエコパスタシアン(袋井市)で試合を行うイタリアやロシアなどのユニホームの色をイメージし、ラムネやトマトソースなど8種の味を用意。もなかは白あん、粒あん、こしあんの3種があり、ラグビーボールをかたどった皮を特別に



ラグビーW杯にちなんだ特別メニューについて話し合う河合基博さん(右)と内藤有紀さん=22日午後、湖西市のひので軒

浜松、湖西市の飲食店と手を組んで店舗ごとにメニューを開発し、大会が終わるまでの期間限定で販売する。各店舗のメニューは冊子にまとめ、県西部の駅などに置く予定。(湖西支局・大沼雄大)